

1 基本認識

日本の社会と都市の変化

- **社会の変化**
 - 過去20年の間に大きく変化し、いま新たな時代へ突入。
 - 最大の変化は総人口の減転。超高齢化・少子化とあいまって社会構造自体を変え、将来に対して決定的に影響。
 - 経済面では今なお流動的で不透明。国民の不安が増大。
 - 個人の意識や社会的価値観も変わり、東日本大震災後は特に、都市のありようや経済活動を、また自身の生活や地域社会を見直す気運が一挙に高まっている。
- **都市の変化**
 - 多くの都市が活力低下。特に地方中小都市の疲弊は顕著。都市運営が困難になったり地域コミュニティの存続すら危ぶまれる都市も。
 - 多くの都市で市街地が縮退傾向。地方都市では中心部の衰退・空洞化もなお進行し、生活利便や防災・防犯性が低下している地域も。
 - 都市化の時代の社会資本がオーバーストック化。遊休地の増加、環境荒廃、地域管理の行き詰まりの懸念も。

都市計画の動向

- **目的と主題の変化**
 - 「都市が成長・拡大するための空間需要に応える」ことから、「持続可能な社会の形成に向けて都市を再編すること」、「都市をコンパクト化すること」に移行。
- **内容の変化**
 - 従来の法定事項を超えて大幅に拡大し多様化。
- **手法の変化**
 - 権能が国から地方自治体へ、都市計画は地方自治事務に。官主導から官民連携が主流に、「選択と集中」が自明に。
- **関係主体の多様化**
 - 行政以外に、NPO・住民、民間事業者、様々な分野の専門家等も関与。諸主体連携・協働が一般化。

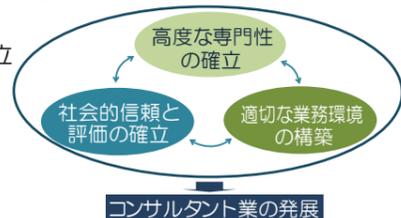
都市計画コンサルタント業の現状と課題

- **業務の性格の変化**
 - 住民・NPO等との協働型業務、地元発意型業務、住民からの相談業務等が増加。
 - 民間の業務、民間事業者との協働業務も。
- **業務内容の変化**
 - 事業や制度・仕組みに関する検討業務、施設の維持やエリアマネージメント関連業務、ワークショップやイベントの企画運営等の業務も増加し、全体として多様化。
- **都市計画コンサルタント業の現状**
 - 様々な問題を抱えている。特に経営基盤の脆弱化が深刻。
 - その大きな要因は業務の受発注方式の変化にあり、業務の質の維持にも影響しかなない事態に。

都市計画コンサルタント業発展のための基本課題

- 高度な専門性の確立
- 社会的信頼と評価の確立
- 適切な業務環境の構築

相互に関係づけ同時並行的に取り組むことが必要。



2 これからの都市計画

「都市計画」に関する基本認識

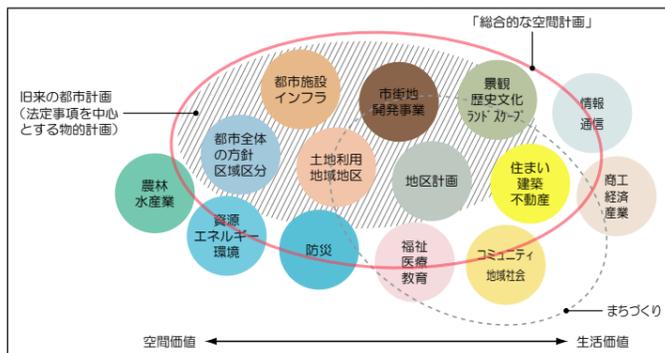
- 都市の将来の物的実体だけでなく、生活の質や都市活動の態様を規定する。この点で社会的に重要で多大な責任を伴う行為。
- 人口減、超高齢社会を迎えたいま、都市とそこでの生活・活動をどうするかという命題に如何に対応し得るかが問われている。

都市計画の理念・目標・役割

- **基本理念**：「持続可能な社会の実現に貢献する」
- **目標**：生活の安定的持続と質の向上、都市活力の維持増進
- **役割**：これを達成する総合的な空間計画を立案し具体化する

「総合的な空間計画」としての都市計画

- 従来の都市計画（Town Planning/City Planning）の域を超え、土地利用等と、生活・都市活動に関わる多様な領域・要素を関係づけて包括的かつ空間的に表現する計画（Spatial Planning）。
- ソーシャル・プランニングとしての性格を帯びる。



都市計画の社会的意味を高めるために

- **本格的なパラダイムシフト**
- **複眼的・多面的なアプローチ**：ハードとソフトの組み合わせ、多様な関連領域・要素の組み合わせ
- **客観性の強化**：データの充実、地元主体による選択肢の評価
- **ダイナミズムの組み込み**：非確定性の組み込み、PDCAの実践

4 これからの都市計画コンサルタント協会

協会の性格と組織像

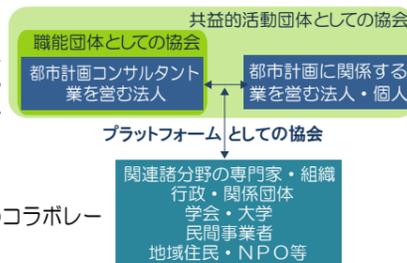
- **非営利・共益的活動目的の一般社団法人**
 - 都市計画コンサルタントの職能の確立と社会的地位の向上を通じて都市計画コンサルタント業の発展を追求する「職能団体」
 - 都市計画の進歩・発展と都市計画を通じた社会・地域への貢献に向けて、都市計画に関わる多様な主体が情報交換、技術交流、連携・協働する「プラットフォーム」

協会の構成

- 都市計画コンサルタント業を営む法人及び関連業務を営む法人・個人で構成。多様な分野の専門家等と幅広く連携。

協会運営と会員の関係

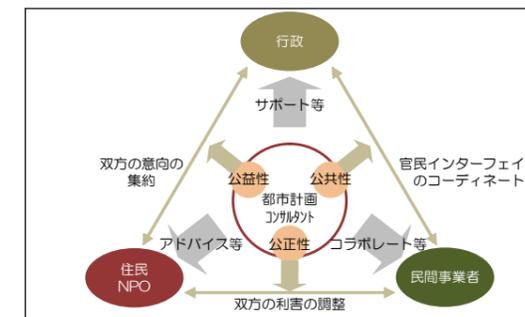
- 協会の活動・運営は全会員のコラボレーションによる。
- 職能団体としての活動は主に正会員が担う。
- 委員会活動等は実質的には個人が担い、これを通じて実務専門家集団として機能。



3 これからの都市計画コンサルタント

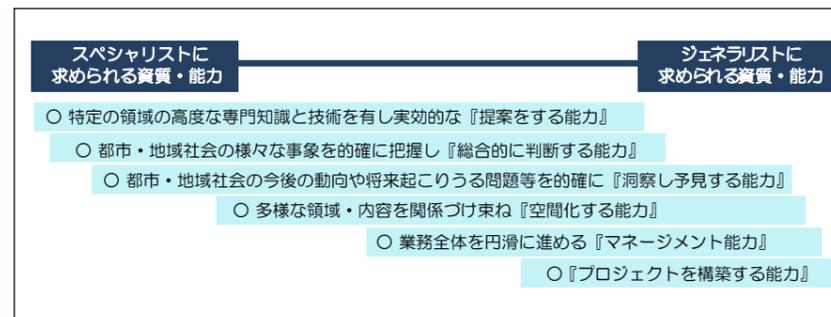
個人としての都市計画コンサルタント像

- **都市計画コンサルタントの本質**
 - 物的な空間計画をベースにして「総合的な空間計画」の立案とその実現に中心的に関わる専門家
- **都市計画コンサルタントの性格**
 - 基本的には空間計画を立案するプランナーであるが、同時に発注者や地域住民・社会に対して助言するアドバイザーでもある。
 - そのなかで、スペシャリストは多分にエンジニアとしての性格も持ち、ジェネラリストは、業務や局面によってはコーディネーター、マネージャー、ファシリテーターなどの役割を担い、空間計画の策定・実現にかかるプロデューサーとしての性格を帯びる。
- **重視すべき資質・能力**
 - コンサルタントの責任は重大。社会利益を重視するスタンスが重要。
 - スペシャリストにとっては、高度な専門知識・技術に基づいた提案力や様々な事象を的確に把握し総合判断する能力が特に重要。
 - ジェネラリスト的な性格が強まるにつれて、全能的に対応することが必要。特に、将来に対する予見力、多様な領域を束ねて空間化する能力、マネージメント力、プロジェクト構築力等が重要。
- **都市計画コンサルタントのポジションと役割**
 - 多様な関係主体に対して複眼的に要請に応えることが必要。
 - 意志決定・事業実施面では第三者、計画策定等の業務面では発注者等のイコールパートナー。
 - 今後は複数の主体の間に立ち第三者として多様な役割を担うことも。



組織としての都市計画コンサルタント像

- **都市計画コンサルタント組織の本質**
 - 都市計画の実務専門家集団
 - 多くの大規模組織はスペシャリストとジェネラリストで構成される。
- **新たなチーム編成の可能性**
 - スペシャリストとジェネラリストが適切に役割分担。
 - 新たな他分野の専門家の参画が不可欠。大組織では組織内でチーム編成。中小組織では外部の専門家とタスクフォースを編成することも。
- **新たな業務展開の可能性**
 - 社会的ニーズの変化にこたえるために、新たな領域で、新たな手法によって、新たな業務にも積極的に取り組むことが必要。
 - 多様な関連領域の都市計画への組み込み。福祉・医療、住まい、防災、情報通信、資源・エネルギー等。
 - 新たな主体とのコラボレーション。民間事業者・地権者、海外業務等。
 - サポート業務の拡大。自治体における都市計画業務の企画・運営等の支援、技術的アドバイス等。地方都市の再生・活性化等に係る計画策定や事業化のプロモート等の総合マネージメントの支援等。



重視する活動と当面の重点取り組み

① コンサルタントの職能の確立と社会的地位の向上に向けた活動

- 専門能力の維持・向上と人材育成の支援
 - 継続教育、スキルアップの支援
 - インターンシップ等の組織的な受け入れの仕組みの整備

○ 都市計画CPDプログラムの充実と運用改善

- 時代の要請に応える高度な専門教育プログラムの活用のための運用改善と各方面への働きかけ

② 都市計画を通じた地域貢献・社会貢献

- 地方自治体の都市計画業務のサポート
 - 情報提供、業務の実施・推進の支援等
- 地域に密着した地元活動の支援
 - 情報提供、アドバイス等
- 都市計画の進歩・発展のための活動
 - 都市のコンパクト化、大規模災害への対応等にかかる都市計画制度・技術等の調査研究及び提言等

○ 大規模災害に対する取り組み

- 東日本大震災復興に対する取り組みの継続・強化
- 今後の大災害等への対応策と即応体制の調査・検討

③ 取り組みを推し進めるために

- 協会組織の強化＝会員のリフトの充実と活動の活性化
 - 協会・会員に関する対外情報発信の強化
 - 会員に対する情報提供の拡充
 - 地方における会員の活動の支援
 - 会員が活躍する場・機会の拡充
 - 会員の拡大と多様化
 - 会員の交流・コラボレーションの支援
- 外部との連携・協働の強化

○ プラットフォームの具体化